

生産される食糧の3分の1が廃棄されている その量を減らすための10の方法とは

1月29日の日本経済新聞によると、「世界で生産される年40億トンの食べ物のうち3分の1が食卓に届く前に失われている」とある。右は同記事からの引用である。「形が不格好だったり、消費期限内に売れ残ったり」と、まだ十分に食べられるのに捨てられる食料がある。

衣食住という言葉がある。江戸時代はたびたび飢饉が起こり、その度に多くの餓死者が出た。また、戦後の食糧難については子供のころによく聞かされた。そして現代でも、開発途上国などでは十分な食料を確保できていない人も多い。

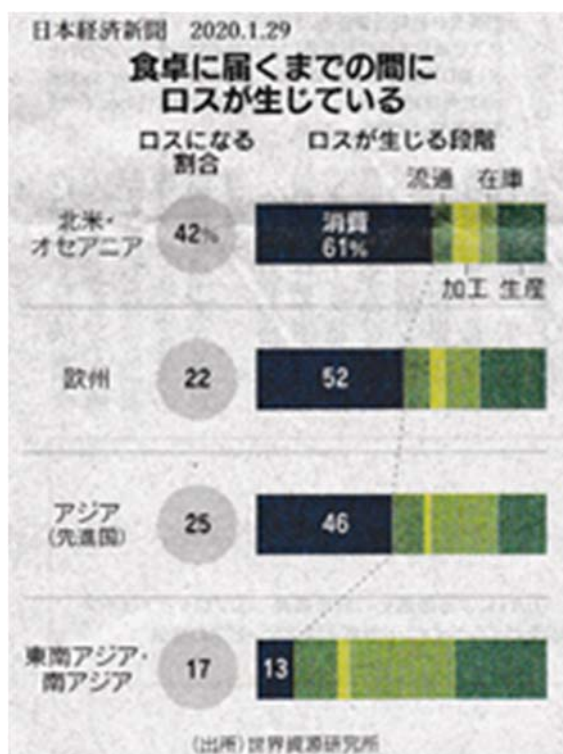
食料の廃棄率が実に3分の1、実に驚くべき数字である。ちょっとした工夫でこの廃棄を減らすことができるだろう。ただし、私が思うのは、1. 日本は食糧輸入国であるが、なぜこのように廃棄率が高いのか？ 食料輸入を減じ、食料供給の絶対量を減らせば食料廃棄ロスも減少するのか？ 2. 食料の価格が高騰し、家計を圧迫するような事態となればこの廃棄率は減少するのか？ 食料価格を高くすることにより国内農業の振興につながるのではないかな？

食料は命を維持するうえで欠くことのできないものであり、その食料を日本は海外からの輸入に頼っている。日本人の命を人質としている国はアメリカか？

■食べる前に廃棄、日本で年643万トン

国連によると、野菜や果物は生産量の45%、魚は35%が食卓に届く前に捨てられたり失われたりしている。野菜はリンゴに換算して3.7兆個、魚はアトランティックサーモンにして30億匹分という途方もない規模だ。

失われ方は様々だ。東南アジアなど温暖な地域では生育段階で捨て置かれたり、収穫後に市場や店に運ぶ過程で傷んだりする。一方、北米や日本などの先進国では、大量の食べ物が消費過程で捨てられている。形が不格好だったり消費期限内に売れ残ったりして捨てられる食べ物の多くは十分食べられる。日本で生じる食品ロスは年643万トン。1人あたり51kgにもなる。



知ってる？日本の食料事情 農林水産省 平成 27 年 10 月

～日本の食料自給率・食料自給力と食料安全保障～

<https://www.maff.go.jp/kanto/kihon/kikaku/kihonkeikaku/pdf/zen27.pdf>

国際的な食料事情について

穀物等の国際価格は、天候や需給動向等に左右されて変動します。2015 年 7 月現在、2012 年の高値から大きく値を下げたものの、2006 年秋頃と比べ依然として 1.2～1.9 倍の水準にあります。

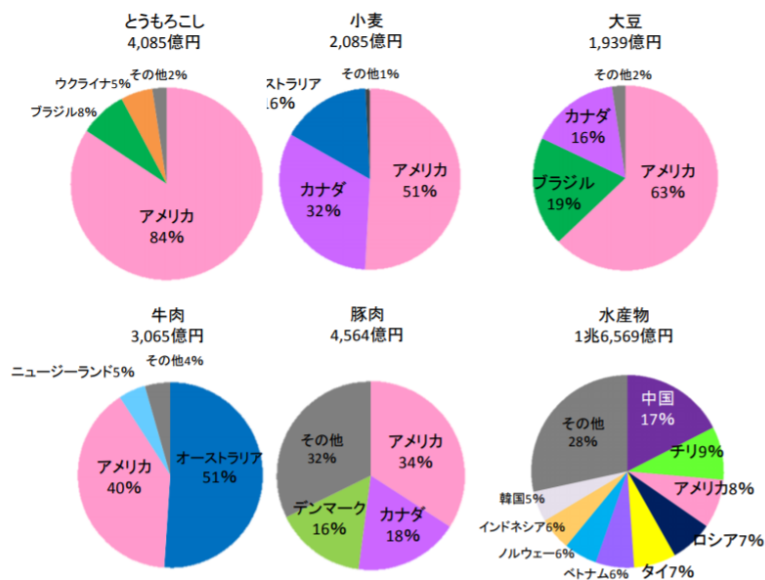
我が国の食料事情について

我が国は世界第 9 位の農林水産業 GDP、世界第 1 位の輸入国
世界全体で見ると、我が国の農林水産業 GDP は世界第 9 位となっています。
一方、我が国は輸入額に比べ輸出額が少なく、世界第 1 位の農産物の純輸入国となっています。

食料供給に係るリスクの 分析・評価

世界的な人口増加等による食料需要の増大、自然災害による生産減少など、我が国の食料供給に影響を及ぼす可能性のある様々な要因（リスク）が存在する中、不測の事態に的確に対応するためには、平素から、食料供給に影響を与える可能性のあるリスクについて定期的に分析・評価することが必要です。

■我が国の主要農水産物の国別輸入割合（2014年）



資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」

世界資源研究所、世界の食品ロス・廃棄を減らす 10 の方法を提案 発表日：2013.06.06

<http://tenbou.nies.go.jp/news/fnews/detail.php?i=11201>

世界資源研究所（WRI）は、新たに発表した調査報告『食品のロス・廃棄を削減する』に基づき、世界の食品ロスと廃棄を削減するための方法を提案した。同報告では、直ちに実行できる低コストの方法として、1) 生産者における貯蔵方法の改善、2) 食品の再分配、3) 「消費期限」等を表示する食品ラベルの改善など、途上国・先進国双方で実行可能な 5 つの方法を提案。（さらに 5 つの提案が続く）